



**Denka**

Possibility  
of  
chemistry

# 2025年度（2026年3月期） 決算説明会資料

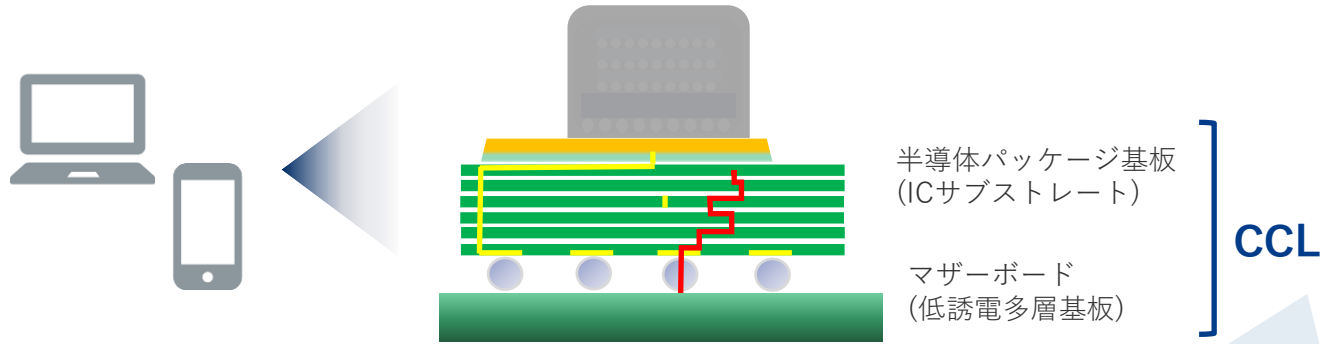
証券コード：4061

**デンカ株式会社**

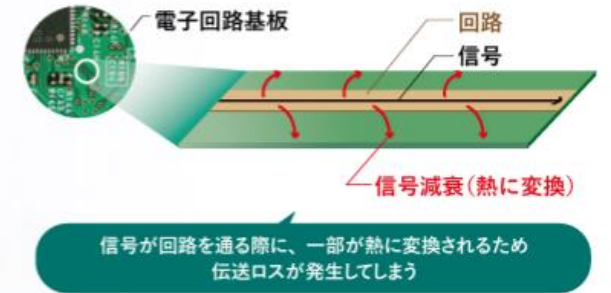
2026年5月13日

■ スネクトン※：CCLメーカー各社から認定を取得。まもなく専用設備が竣工

※スネクトン：低誘電有機絶縁樹脂。伝送損失を大幅に低減する優れた誘電正接と加工性を両立する**唯一無二の材料**



伝送損失のしくみ



CCLの構成材料



軟質系スネクトン

専用プラントが竣工 (5月中旬)

CCLメーカー各社より認定取得済み



硬質系スネクトン

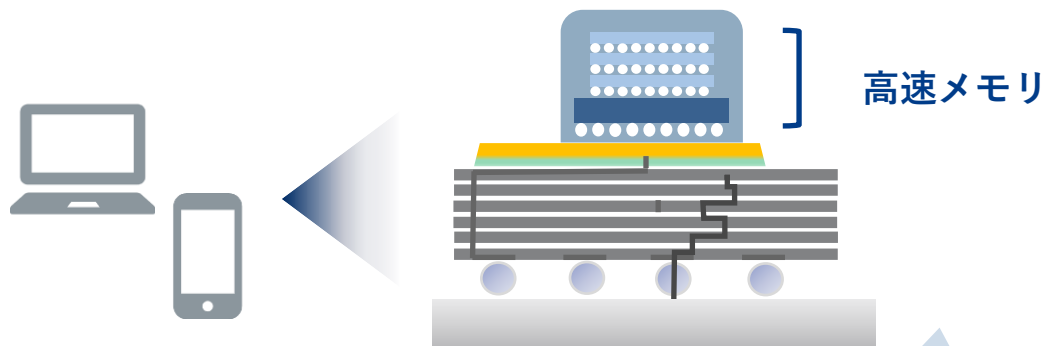
2026年度中の販売開始に向け開発品を各社にて評価中

硬質系の設備増強を最終検討中

低誘電正接シリカ

低誘電ニーズの拡大により、販売量増加中

■ 放熱封止材向け 球状アルミナ：GDDR7向け需要は堅調。多層パッケージ向けの採用も決定



当社品の強み

- ・ 様々な粒径の製品ラインナップ
- ・ 製品を最適に組み合わせることで、**高放熱性を発現する配合提案**が可能
- ・ 半導体の微細化に対応した**微粉**生産が可能  
(狙った粒径を選別するのではなく、直接的に生産)

高速メモリ向け放熱封止材

放熱封止材向け 球状アルミナ

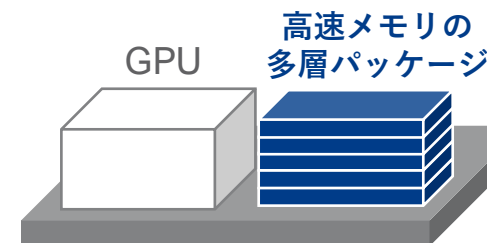
GDDR向け（高速データ転送）

GDDR 7 向け需要は堅調に推移。  
次世代GDDR向けグレードの  
ユーザー評価も順調に進捗



高速メモリの多層パッケージ向け（HBMなど）

新規案件の採用決定。  
次世代パッケージ向け  
グレードの開発も進行



- 営業利益：抜本的対策効果は計画並みの2025年度+88億円、2026年度+150億円を見込む（2024年度比）
- 特別損益：2026年度も一定の特別損失を見込むが、特別利益の計上等で補填することを計画
- 経営計画「Mission 2030」フェーズ2期間内（2026年度～2028年度）で早期にクローズまでの計画策定

最新状況	設備	DPEでは、製造設備の安全な状態での休止を目的とした、原材料や中間品などの物質の抜き出し、および処分作業が最終段階を迎えている。
	従業員	休止作業の進捗に応じて、人員の適正化を進めている。 (従業員数 2025年3月末時点：約250名→2025年12月末時点：約140名→2026年4月末時点：約80名)
	ステークホルダー	DPEは、今後の費用負担を最小化すべく、各ステークホルダーとの協議を継続中

単位：億円		2024年度	2025年度	2026年度
営業利益	抜本的対策効果 (2024年度比)		+88	+150
特別損益	DPE関連損失	△179 (減損損失△161ほか)	△184 (原材料・中間品の評価減、 原材料等の抜取作業に伴う 労務費などの費用)	2026年度も一定の費用が 特別損失として発生
	大船工場用地売却益		+82	補填 ↑
	政策保有株式売却益		+126	
	繰延税金資産の計上			検討

2025年度  
通期実績  
(P6-P15)

■ **営業利益： 262億円（前年比 +118億円）**

電子・先端プロダクツ数量差+67：半導体(AI関連)と電力インフラ向け需要拡大、半導体（汎用）向け需要の緩やかな回復  
DPE操業停止効果 +88

■ **純利益： 157億円（前年比 +280億円） → ROE 5.2%**

特別利益:政策保有株式売却益	2024年度	+4	→	2025年度	+126	} 208 補填
特別利益：大船工場用地売却益	2024年度	なし	→	2025年度	+82	
特別損失：事業整理損等（DPE関連等）	2024年度	△251	→	2025年度	△211	

2026年度  
通期予想  
(P16-P29)

**経営計画「Mission2030」フェーズ2計画値に中東情勢影響(△50億円)を織り込み**

■ **営業利益：300億円（フェーズ2計画比△50億円、前年比+38億円）**

■ **純利益：160億円（フェーズ2計画比△20億円、前年比+3億円）**

（中東情勢影響を除いた各セグメントの状況（計画比））

電子・先端プロダクツ： AI関連製品（スネクトン、球状シリカ、球状アルミナなど）の需要拡大による上方修正  
ライフソリューション： 足元の感染症の流行状況に応じた抗原迅速診断キットの販売数量の下方修正

株主還元  
(P30)

■ **前年同額の100円/株を維持（総還元性向54%）**

■ **今後の配当方針：総還元性向50%（経営計画8年間累計）を目安にしたうえで、1株当たり配当額の維持、増加を目指す**

2025年度(2026年3月期)  
決算概要

- 営業利益は半導体(AI関連)と電力インフラ向け需要拡大、クロロプレンゴムの抜本的対策による改善効果などによりV字回復
- 純利益はDPE関連損失を政策保有株式売却益と大船工場用地売却益にて補填し、大幅増

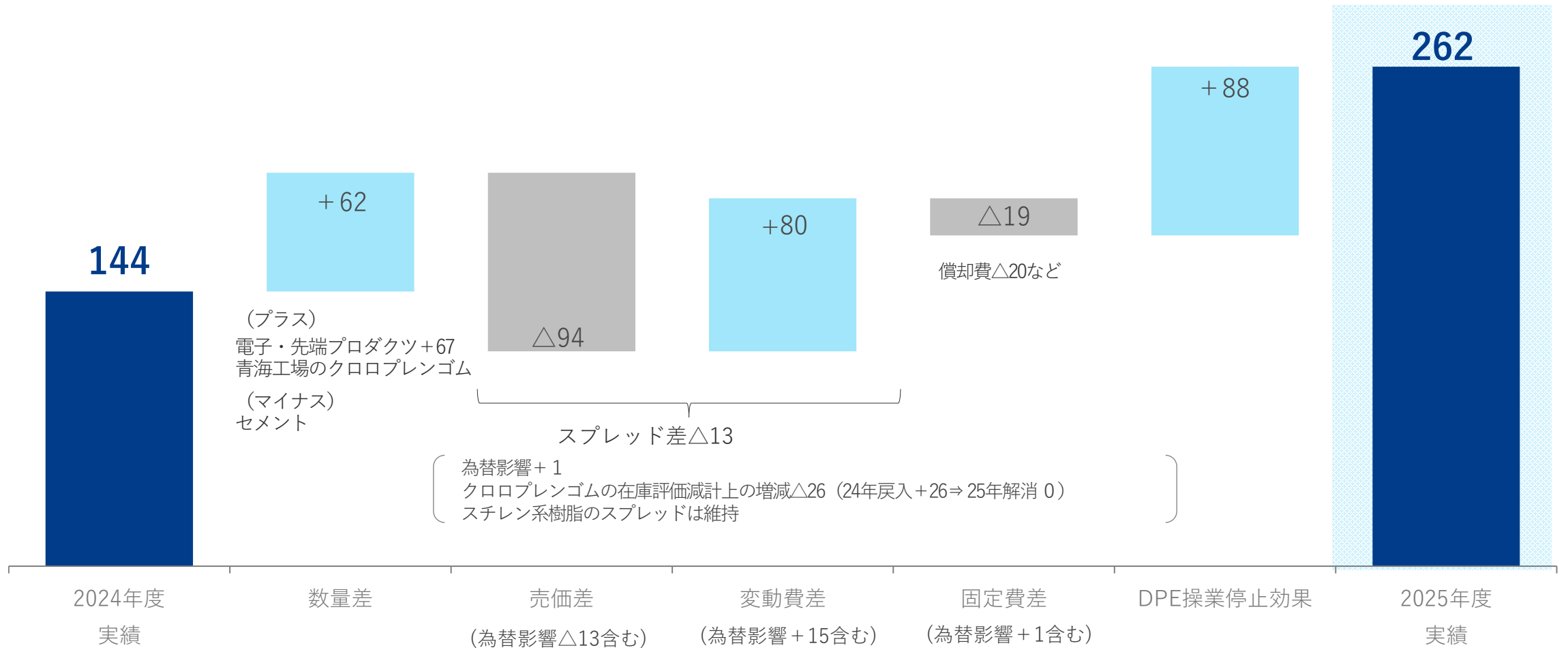
単位：億円	2024年度 実績	2025年度 実績	(前年比)	2025年度 2月予想	(2月 予想比)
売上高	4,003	<b>3,842</b>	△160	3,900	△58
営業利益	144	<b>262</b>	+118	250	+12
営業利益率	3.6%	<b>6.8%</b>	+3.2%	6.4%	+0.4%
経常利益	76	<b>193</b>	+117	190	+3
特別利益：政策保有株式売却益	4	126			
特別利益：大船工場用地売却益	-	82			
特別損失：事業整理損失等(DPE関連等)	△ 251	△ 211			
特別損益：その他(負ののれん等)	-	24			
純利益	△ 123	<b>157</b>	+280	150	+7
為替レート (円/\$)	152.8 (上 153.9/下 151.6)	<b>150.2</b> (上 146.2/下 154.3)		150.4	
国産ナフサ (円/Kリットル)	75,700 (上 77,700/下 73,700)	<b>65,800</b> (上 65,000/下 66,600)		65,000	

208  
補填

■ 半導体 (AI関連) と電力インフラ向け需要拡大などによる数量差プラス、DPE操業停止効果により大幅増益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



## ■ 電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューションが大幅増益

売上高	2024年度	2025年度	増減	DPE			単位：億円
				数量差	売価差	操業停止効果	
電子・先端プロダクツ	922	1,044	+122	+117	+5		
ライフイノベーション	433	405	△27	△30	+3		
エラストマー・インフラソリューション	1,117	976	△141	△50	+22	△113	
ポリマーソリューション	1,354	1,242	△112	+11	△123		
その他/消去差	177	176	△2	△2	-		
合計	4,003	3,842	△160	+47	△94	△113	

営業利益	2024年度	2025年度	増減	DPE			
				数量差	売価差	コスト差等	操業停止効果
電子・先端プロダクツ	92	139	+47	+67	+5	△24	
ライフイノベーション	96	62	△34	△19	+3	△17	
エラストマー・インフラソリューション	△80	1	+80	+16	+22	△46	+88
ポリマーソリューション	12	36	+24	△1	△123	+148	
その他/消去差	25	24	△0	△0	-	-	
合計	144	262	+118	+62	△94	+61	+88

## ■ ライフイノベーションが減益も、他のセグメントが増益により全体では前四半期並み

単位：億円

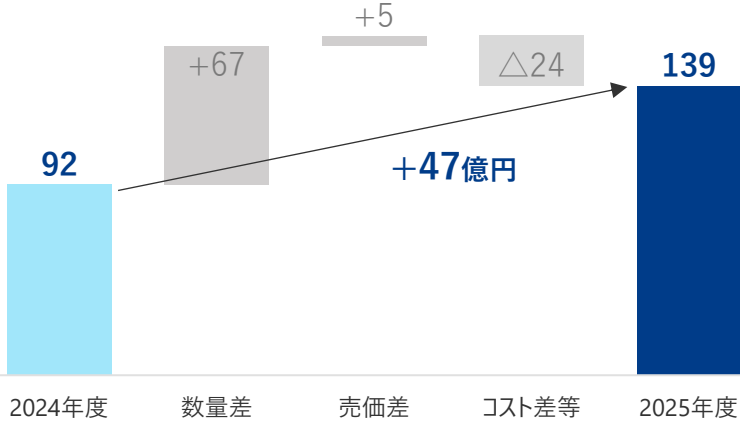
売上高	2023年度				2024年度				2025年度				3Q比 (増減)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
電子・先端プロダクツ	192	225	217	245	219	232	225	247	236	265	258	<b>285</b>	+27
ライフイノベーション	72	150	158	90	78	146	127	82	66	148	135	<b>56</b>	△79
エラストマー・インフラソリューション	280	292	286	256	292	272	280	272	258	241	229	<b>248</b>	+19
ポリマーソリューション	298	317	309	319	326	349	349	330	338	316	278	<b>309</b>	+31
その他/消去差	37	51	45	54	38	40	44	56	43	56	40	<b>37</b>	△3
合計	878	1,035	1,015	964	952	1,038	1,025	987	941	1,026	941	<b>935</b>	△6

営業利益	2023年度				2024年度				2025年度				3Q比 (増減)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
電子・先端プロダクツ	21	28	18	24	23	27	20	22	25	38	34	<b>41</b>	+7
ライフイノベーション	9	57	31	20	17	40	19	20	2	36	28	<b>△4</b>	△31
エラストマー・インフラソリューション	△7	△9	△39	△37	△2	△29	△26	△23	△14	△20	11	<b>24</b>	+12
ポリマーソリューション	0	△2	6	△4	3	4	4	1	4	11	5	<b>16</b>	+11
その他/消去差	5	5	4	6	7	5	7	5	6	9	6	<b>3</b>	△4
合計	28	77	20	8	47	47	24	26	23	74	85	<b>80</b>	△4

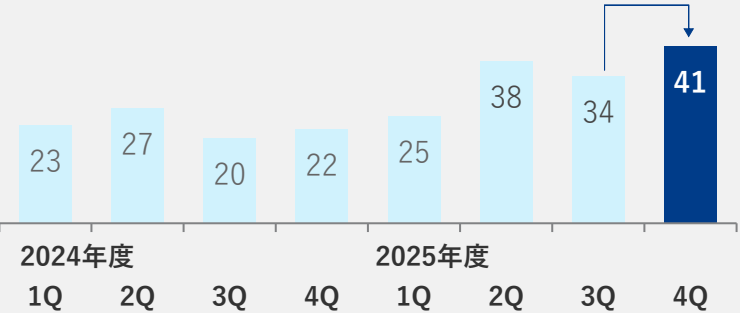
■ 半導体 (AI関連) ・電力インフラ向けの需要拡大と半導体 (汎用) 向けの緩やかな回復により増益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



営業利益 四半期推移



4Q単体(3Q比)

・需要が総じて堅調に推移する中、中東情勢影響により一部出荷が前倒し

差異理由 (前年比)

品名	数量差	用途別			売価差
		AI関連・電力インフラ	半導体・電子部品 (AI除く)	その他	
スネクトン	↑	樹脂基板用途 販売本格化がスタート	-	-	-
球状シリカ	↑	樹脂基板用途 AI向け好調が継続 光フェルール用途 需要が急伸	封止材用途 緩やかな需要回復が継続	-	→ 前年並
球状アルミナ	↑	放熱封止材用途 AI向け好調が継続	TIM用途* 緩やかな需要回復が継続	xEV用途 欧州向け低調	→
高機能フィルム	↑	-	緩やかに回復	-	→ 前年並
アセチレンブラック	↑	電力インフラ向け 高圧ケーブル需要が堅調、ESS向けが急伸	-	xEV用途 欧州向け低調	↓ 為替影響：マイナス
アルシンク	↑	電力インフラ向け 好調継続	-	電鉄向け 引き続き堅調	↑ 構成差
窒化珪素(粉)	→	-	-	放熱基板向け・ベアリングボール向け EV市場は低調も、切替需要で前年並	→ 前年並
セラミックス基板 (窒化珪素基板・窒化アルミ基板)	→	-	-	xEV用途 欧州向け低調 電鉄向け 引き続き堅調	↑ 計画並みに値上げ進捗

コスト差等



償却費増  
△16

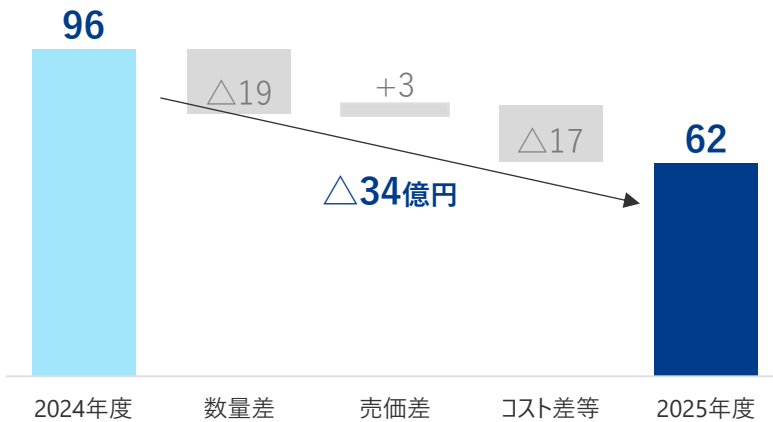
在庫影響  
(単価の高い期首在庫の影響)、他

※ TIM(Thermal Interface Materials) : 放熱材料

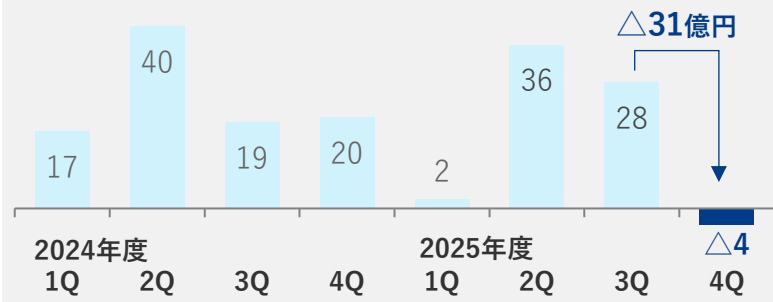
■ 新型コロナが前年ほど流行せず、検査需要の減少によりコロナ検査キットの出荷が減少した為、減益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



営業利益 四半期推移



差異理由 (前年比)

※コンボキット：新型コロナウイルス・インフルエンザ同時検査キット

	数量差	売価差	コスト差等
インフルエンザワクチン	→ 前年並	→ 前年並	
抗原迅速診断キット	↓ ・新型コロナが昨年ほど流行せず、検査需要の減少によりコロナ検査キットが出荷減 ・コンボキットは出荷が前年を上回る	→ 同上	↓ 固定費増加 (償却費△7、他)
臨床試薬 (炎症マーカー等)	↓ 一部海外向けの不調により販売減	↗ 販売構成差	

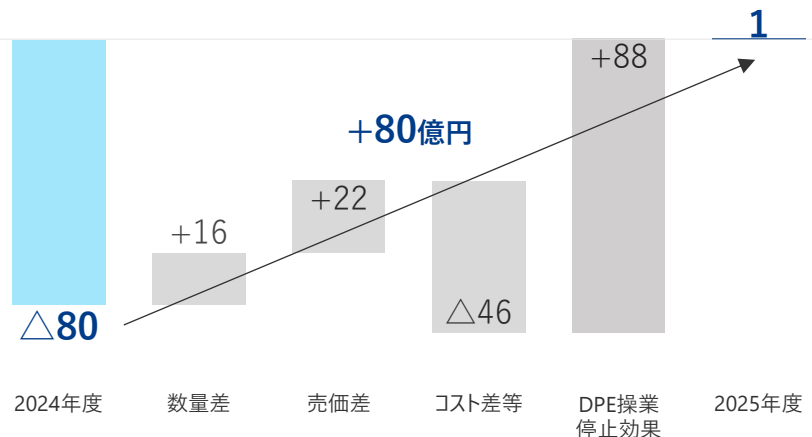
・抗原迅速診断キット：感染症の流行が落ち着いた為、販売が大幅減

## DPE操業停止効果により赤字解消

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円

差異理由 (前年比)



数量差



需要は前年並も、DPE品からの切替により青海工場品の出荷増

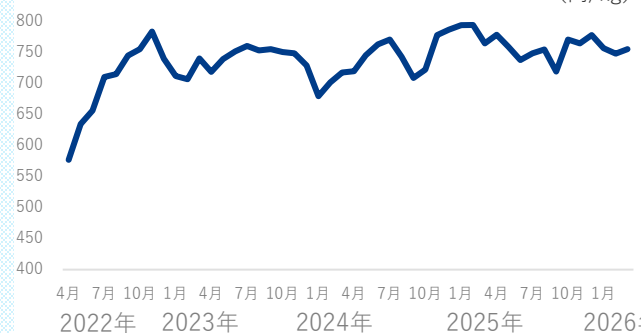
クロロプレンゴム

売価差



- ・為替影響：プラス
- ・為替除く影響：プラス

【通関統計】輸出単価 (ドライ+ラテックス) (円/kg)



コスト差等



クロロプレンゴム：

- ・在庫評価減計上の増減△26 (24年度計戻入+26 ⇒ 25年度解消 0)
- ・在庫影響 ほか

営業利益 四半期推移



4Q単体(3Q比)

クロロプレンゴム：3Qに定期修繕

特殊混和材



工事遅れにより需要が前年を下回る

値上げ



セメント



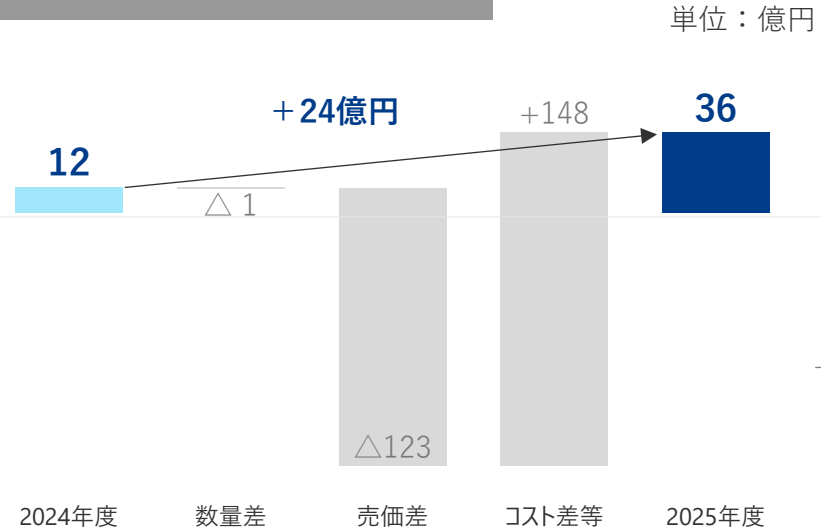
25年6月に生産終了



前年並

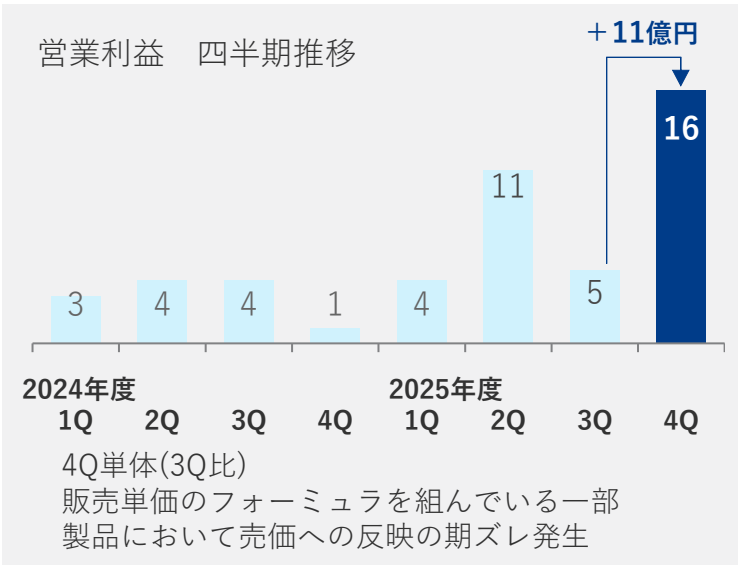
■ 食包シート・容器の適正価格への是正、Toyokalonの生産集約により増益

営業利益 差異分析(前年比)



差異理由 (前年比)

	数量差	売価差	コスト差等
MS樹脂	↓ (PCモニター向け導光板用途) 中国品との競合による販売減	↓ (スチレン系樹脂：原燃料価格下落に伴う価格改定 (スプレッドは維持))	↗ (変動費：原燃料価格下落により良化)
AS・ABS・透明樹脂など	→ 前年並	↓	
食包シート・容器	→ 前年並	↗ (適正価格への是正)	
Toyokalon	↗ (緩やかな回復)	→ 前年並	↗ (生産集約によりコスト削減)



## ■ 電子・先端プロダクツの上振れなどにより、全体でも上振れ

単位：億円

売上高	2025年度 2月予想	2025年度 実績	増減	DPE		
				数量差	売価差	操業停止効果
電子・先端プロダクツ	1,050	<b>1,044</b>	△6	△3	△3	
ライフイノベーション	400	<b>405</b>	+5	+5	△0	
エラストマー・インフラソリューション	1,000	<b>976</b>	△24	△24	△1	+0
ポリマーソリューション	1,250	<b>1,242</b>	△8	△15	+7	
その他/消去差	200	<b>176</b>	△24	△24	-	
合計	3,900	<b>3,842</b>	△58	△61	+4	+0

営業利益	2025年度 2月予想	2025年度 実績	増減	DPE			
				数量差	売価差	コスト差等	操業停止効果
電子・先端プロダクツ	130	<b>139</b>	+9	+4	△3	+7	
ライフイノベーション	70	<b>62</b>	△8	△9	△0	+2	
エラストマー・インフラソリューション	0	<b>1</b>	+1	△8	△1	+7	+3
ポリマーソリューション	30	<b>36</b>	+6	+4	+7	△5	
その他/消去差	20	<b>24</b>	+4	+4	-	-	
合計	250	<b>262</b>	+12	△5	+4	+11	+3

2026年度(2027年3月期)  
業績予想

## ■ 経営計画「Mission2030」フェーズ2計画値に、中東情勢影響△50億円を加味

単位：億円	2025年度 実績	2026年度 計画値	2026年度 予想	(前年比)	2026年度 上期予想	2026年度 下期予想
売上高	3,842	4,100	<b>4,500</b>	+658	2,100	2,400
営業利益	262	350	<b>300</b>	+38	120	180
営業利益率	6.8%	8.5%	<b>6.7%</b>	△0.2%	5.7%	7.5%
経常利益	193		<b>200</b>	+7	70	130
特別利益：政策保有株式売却益	126					
特別利益：大船工場用地売却益	82					
特別損失：事業整理損失等(DPE関連等)	△ 211					
特別損益：その他(負ののれん等)	24					
純利益	157	180	<b>160</b>	+3	0	160
為替レート (円/\$)	150.2	148.0	<b>158.0</b>		158.0	158.0
国産ナフサ (円/Kリットル)	65,800	58,400	<b>123,250</b>		121,100	125,400

### 主な予想の前提

#### 原料調達への影響

- ・上期中は原料調達に支障
- ・10月以降は通常に回復
- ・原燃料価格は年度内は高止まり

#### 為替感応度

1円/ドル円安 ⇒ 営業利益 +3億円

利益

補填

損失

利益

補填

損失

■ 原材料の供給制限によるアセチレンブラック等の生産量減少と、  
前年並みの流行を想定した抗原迅速診断キットの販売数量減等を織り込み

単位：億円

営業利益	フェーズ2 計画値	2026年度予想		計	計画比	主な差異
		最新積上	中東情勢 影響			
電子・先端プロダクツ	150	165	△35	130	△20	AI関連、電力インフラ向けの需要がフェーズ2計画以上に拡大も、中東情勢に起因する原材料調達制限によりアセチレンブラック等が減産
ライフイノベーション	85	60	0	60	△25	前年並みの感染症の流行を想定し、抗原迅速診断キットの販売数量をフェーズ2計画から見直し
エラストマー・ インフラソリューション	65	70	0	70	+5	中東情勢影響はコストアップ分を価格転嫁
ポリマーソリューション	30	35	△15	20	△10	中東情勢影響に起因する原材料の調達制限による減産
その他	20	20	0	20	+0	
合計	350	350	△50	300	△50	

■ AI向け、電力インフラ向けは堅調な成長継続

天気記号

(良い)



(悪い)

(市場動向)

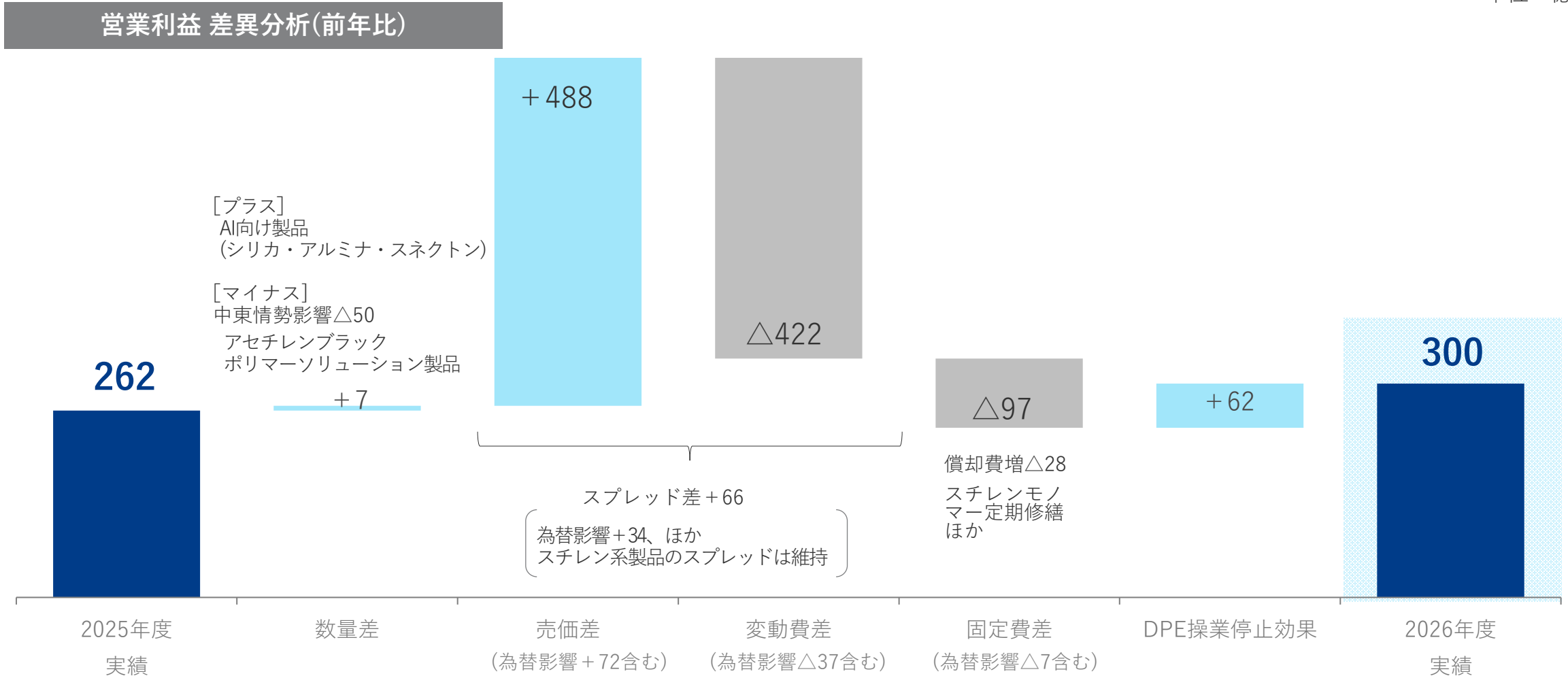
2025年度実績

2026年度予想

電子・先端 プロダクツ	半導体・電子部品	 AI向け 堅調な成長が継続  AI向け以外 鈍い回復が継続	▶	 AI向け 堅調な成長が継続  AI向け以外 鈍い回復が継続
	電力インフラ (高圧ケーブル・ESS等)	 高圧ケーブル 堅調な成長が継続 ESS 需要の急伸	▶	 高圧ケーブル 堅調な成長が継続 ESS 需要の急伸
	xEV	 需要低調	▶	 前年並
ライフ イノベーション	感染症検査 (新型コロナウイルス、 インフルエンザ等)  2024年度と比べ、 感染症の大きな流行は見られず	▶	 2025年度並みの流行を想定	
エラストマー・ インフラ ソリューション	クロロプレンゴム  クロロプレンゴム世界需要23万トン、 減少傾向が継続	▶	 需要低調が継続、世界需要23万トン	
ポリマー ソリューション	樹脂  PC、家電向け 雑貨類向け 食品容器向け 需要低調	▶	 PC、家電向け 雑貨類向け 食品容器向け 需要低調	

■ AI関連製品 (スネクトン、球状シリカ、球状アルミナなど) の需要拡大継続、DPE操業停止効果のプラス影響を見込み、中東情勢影響△50億円を織り込むも、増益の見通し

単位：億円



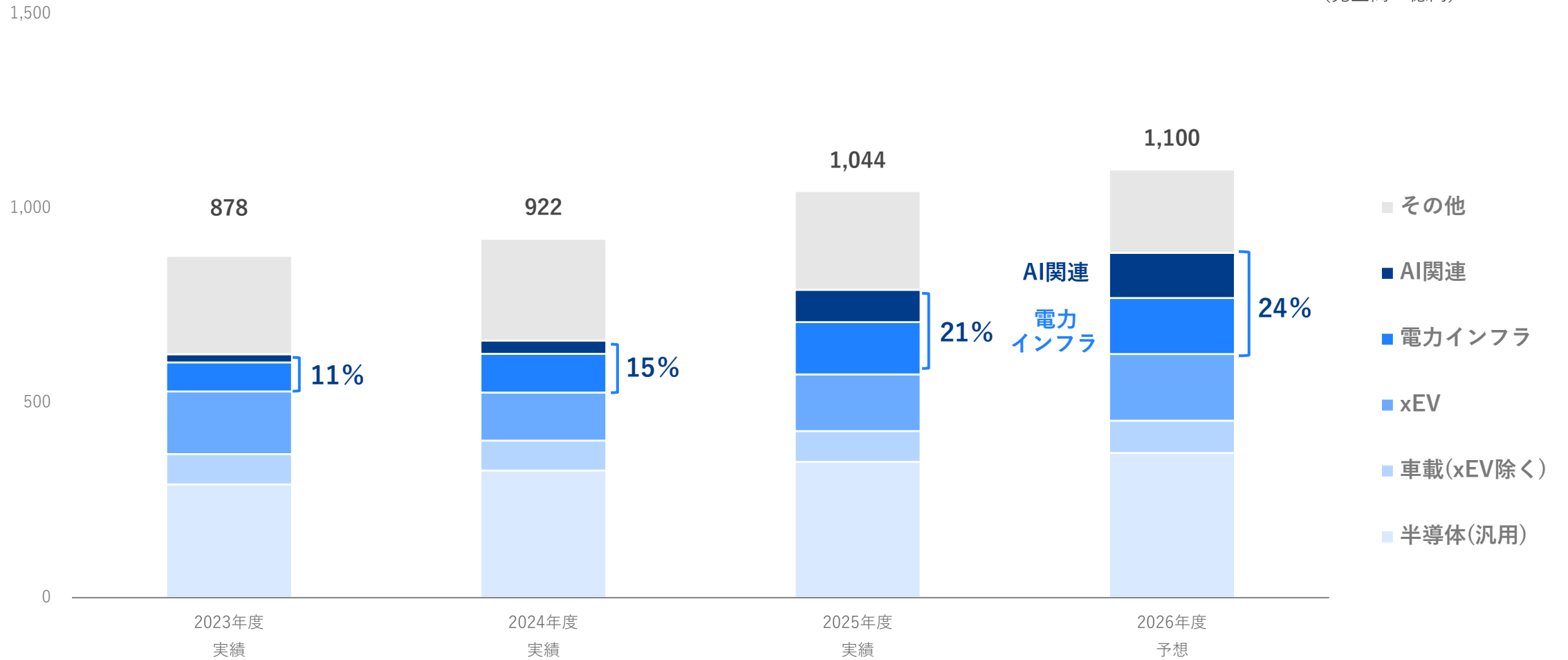
## ■ 中東情勢によるマイナス影響も、エラストマー・インフラソリューションの増益により、全体でも増益

売上高	2025年度 実績	2026年度 予想	増減	DPE			単位：億円
				数量差	売価差	操業停止効果	
電子・先端プロダクツ	1,044	<b>1,100</b>	+56	△36	+91		
ライフソリューション	405	<b>450</b>	+45	+51	△6		
エラストマー・インフラソリューション	976	<b>1,050</b>	+74	+76	+61	△62	
ポリマーソリューション	1,242	<b>1,700</b>	+458	+117	+341		
その他/消去差	176	<b>200</b>	+24	+24	-		
合計	3,842	<b>4,500</b>	+658	+232	+488	△62	
営業利益	2025年度 実績	2026年度 予想	増減	DPE			
				数量差	売価差	コスト差等	操業停止効果
電子・先端プロダクツ	139	<b>130</b>	△9	△3	+91	△97	
ライフソリューション	62	<b>60</b>	△2	+18	△6	△15	
エラストマー・インフラソリューション	1	<b>70</b>	+69	+22	+61	△75	+62
ポリマーソリューション	36	<b>20</b>	△16	△25	+341	△332	
その他/消去差	24	<b>20</b>	△4	△5	-	+0	
合計	262	<b>300</b>	+38	+7	+488	△519	+62

■ 半導体 (AI関連) と電力インフラ向けの需要拡大が継続

売上高用途別構成 推移

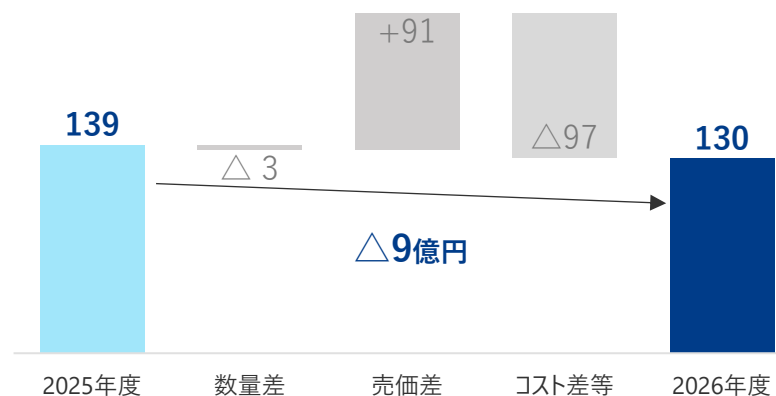
(売上高：億円)



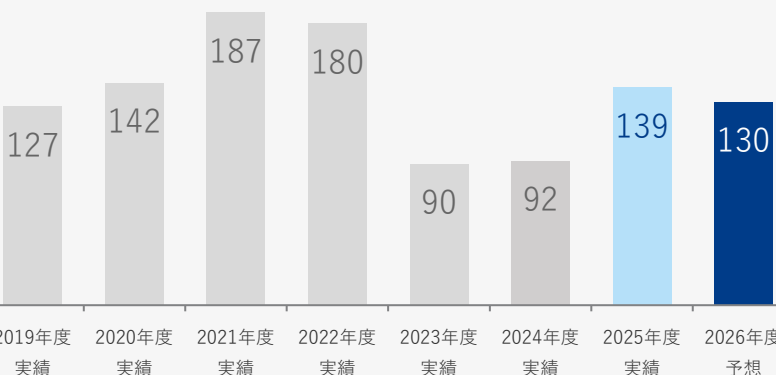
■ AI・電力インフラ向け需要拡大、半導体・電子部品関連回復傾向も中東情勢により減益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



営業利益 推移



差異理由 (前年比)

品名	数量差	用途別			売価差
		AI関連・電力インフラ	半導体・電子部品 (AI除く)	その他	
スネクトン	↑	樹脂基板用途 下期よりAI向け販売が本格化	-	-	→ 前年並
球状シリカ	↑	樹脂基板用途 AI向け好調が継続 光フェルール用途 拡大が継続	封止材用途 緩やかな需要回復継続	-	→
球状アルミナ	↑	放熱封止材用途 AI向け好調が継続	TIM用途* 緩やかな需要回復継続	xEV用途 欧州向け低調	↑ 原燃料価格悪化に伴う値上げ
高性能フィルム	↑	-	緩やかな需要回復が継続	-	↑
アセチレンブラック	↓	電力インフラ向け 高压ケーブル向け堅調、ESS向け急増も中東情勢により減産	-	xEV用途 欧州向け低調	→
アルシンク	↑	電力インフラ向け 好調継続	-	電鉄向け 前年並	↑ 構成差
窒化珪素(粉)	→	-	-	放熱基板向け・ベアリングボール向け EV市場は低調も、切替需要で前年並	→ 前年並
セラミックス基板 (窒化珪素基板・窒化アルミ基板)	→	-	-	xEV用途 欧州向け低調 電鉄向け 引き続き堅調	↑ 値上げ

コスト差等



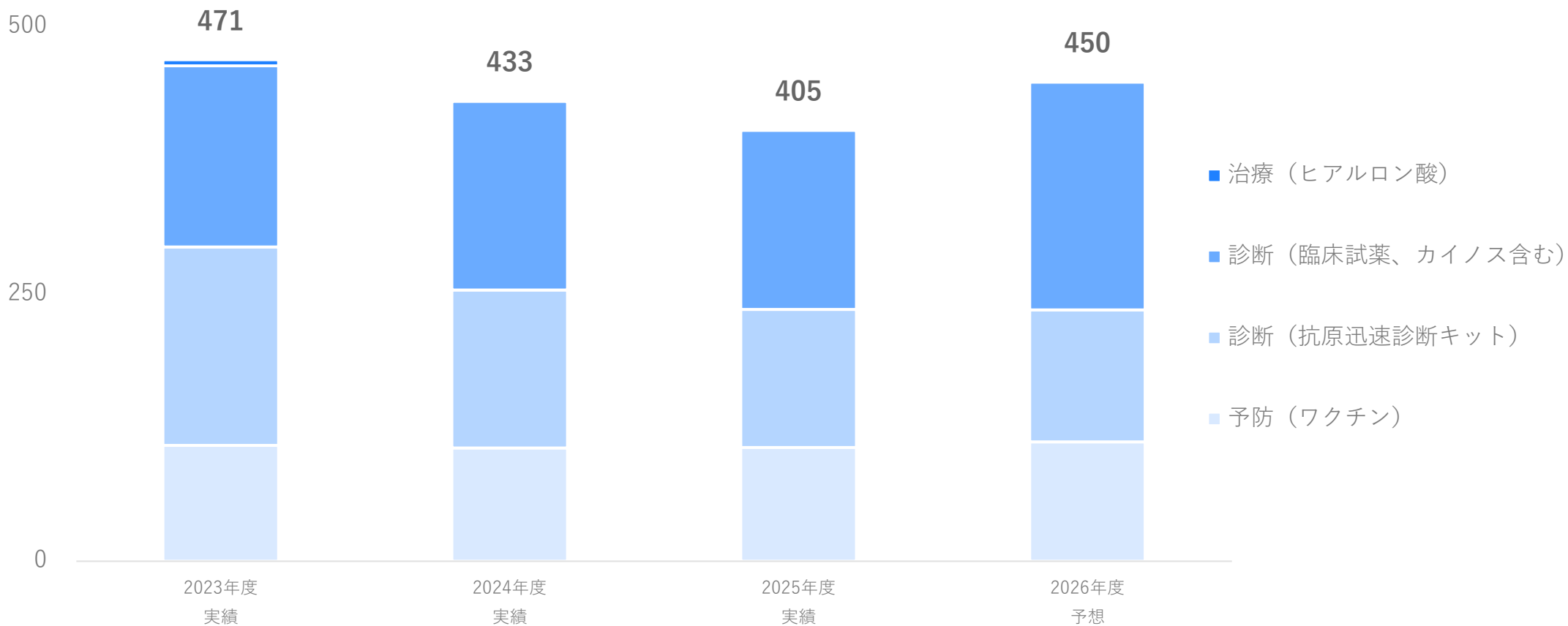
償却費増△8  
原燃料価格悪化、他

※ TIM(Thermal Interface Materials) : 放熱材料

■ 抗原迅速診断キットは、前年並みの感染症の流行を想定。臨床試薬はカイノス社の連結化により増収

売上高用途別構成 推移

(売上高：億円)



※2023年1月、高分子ヒアルロン酸製剤の受託製造終了

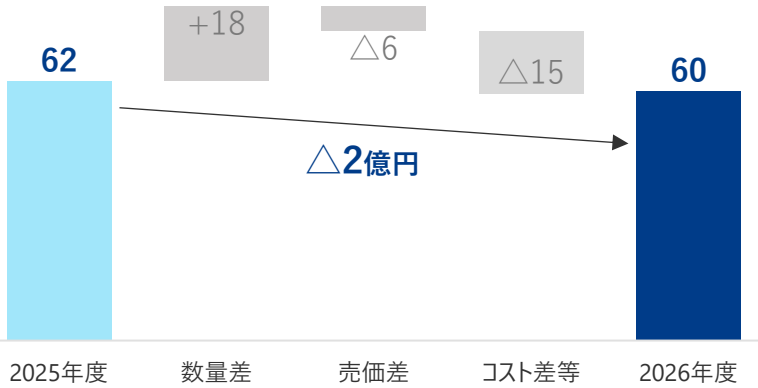
■ 抗原迅速診断キットは、前年並みの感染症の流行を想定。臨床試薬はカイノス連結化によるプラス。

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円

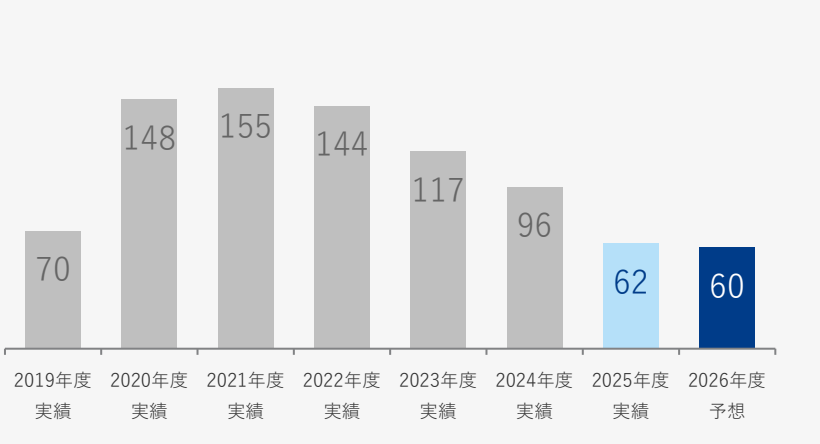
差異理由 (前年比)

※コンボキット：新型コロナウイルス・インフルエンザ同時検査キット



	数量差	売価差	コスト差等
インフルエンザワクチン	→ 前年並	→ 前年並	
抗原迅速診断キット	→ 前年並の流行を想定	↘ 販売構成差	↘ 変動費増加 (鶏卵価格上昇、他)
臨床試薬 (炎症マーカー等、カイノス含む)	↗ カイノス社連結化による増分を含む	→ 前年並	

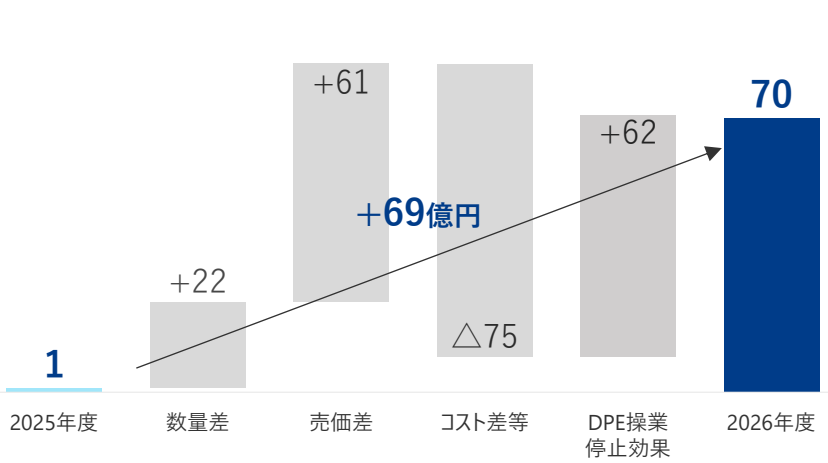
営業利益 推移



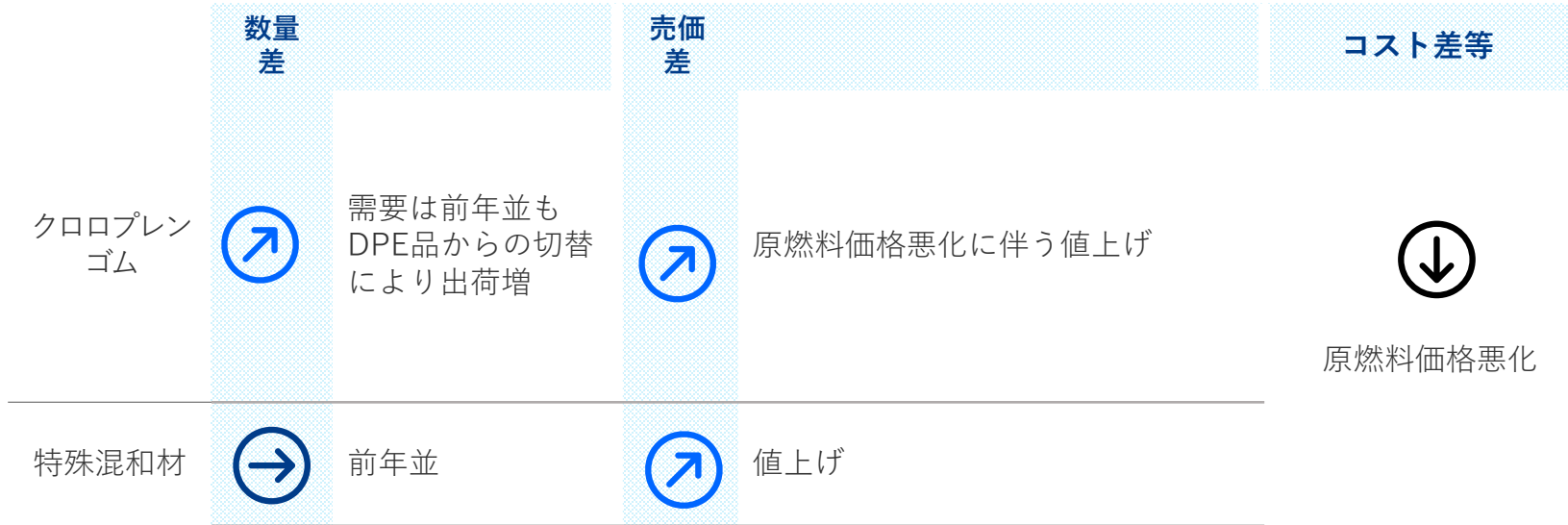
■ DPE操業停止効果により大幅増益

営業利益 差異分析(前年比)

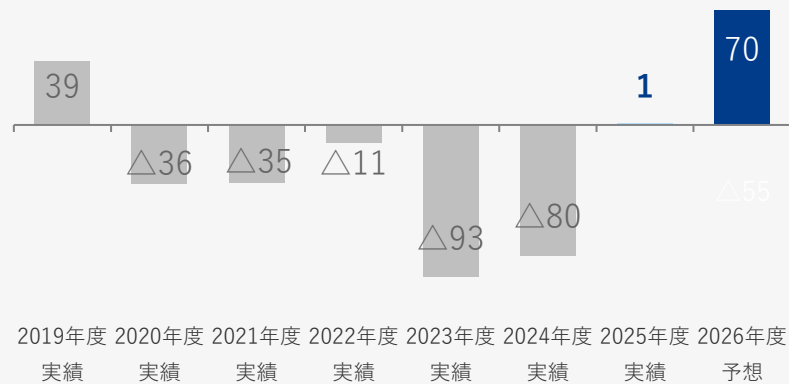
単位：億円



差異理由 (前年比)



営業利益 推移

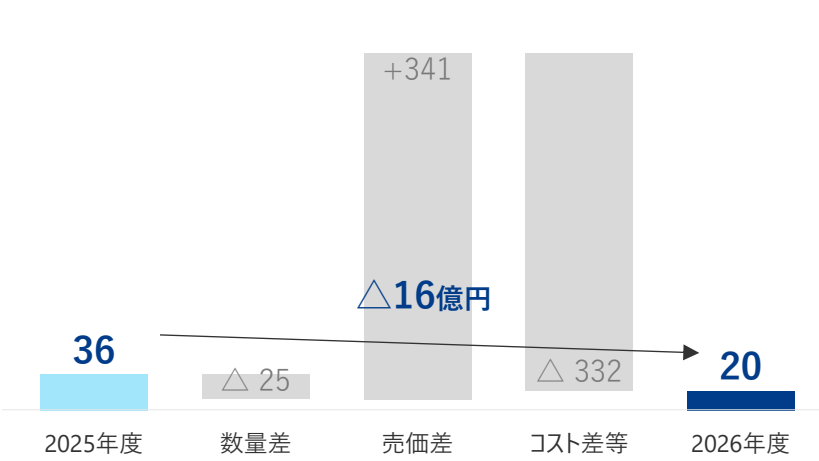


■ スチレンモノマー定期修繕費用計上に加え、中東情勢の影響に伴う減産により大幅減益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円

差異理由 (前年比)

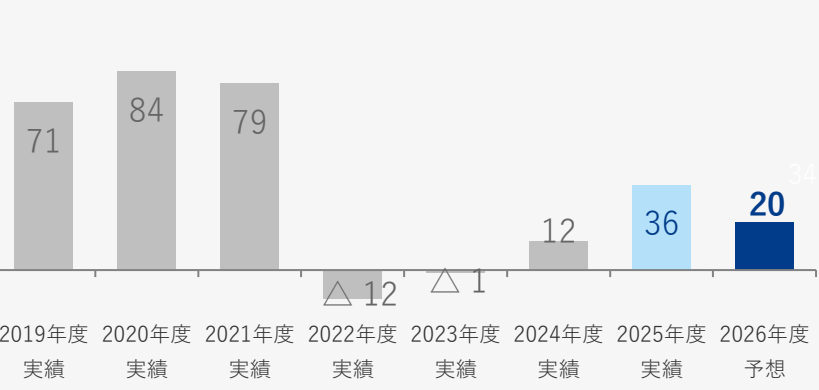


	数量差	売価差	コスト差等
MS樹脂	⬇️ (PCモニター向け導光板用途) 中東情勢により減産	⬆️	
AS・ABS・透明樹脂など	⬇️ 中東情勢により減産	⬆️	⬇️
食包シート・容器	➡️ 前年並	⬆️	
Toyokalon	⬇️ 中東情勢により減産	⬆️	

変動費：原燃料価格上昇

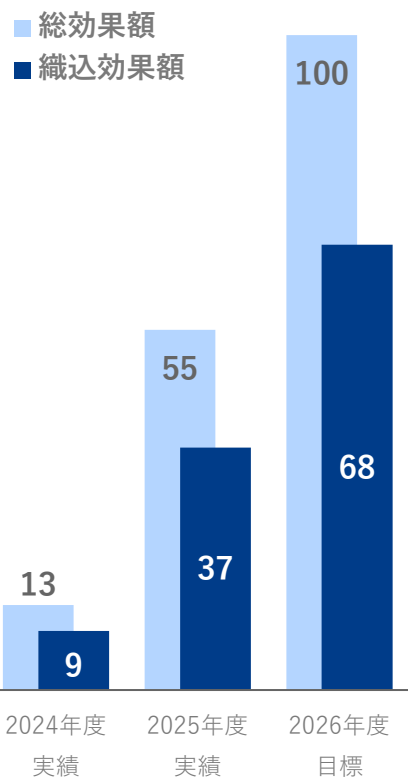
スチレンモノマー定期修繕

営業利益 推移



- ベストプラクティスプロジェクトでは、コストダウン達成へ向け各施策を推進
- 2025年度は原価低減等により37億円のコストダウンを実現
- 2026年度は68億円を今回予想に織込み

実績・目標



施策	2024年度実績	2025年度実績	2026年度予想
原価低減	9億円	37億円	68億円
サプライチェーン改革			35億円
販売経費低減			10億円
グループ会社への展開			15億円
			8億円

■ 総効果額 : プロジェクトで定めた測定基準に基づく総効果額

■ 織込効果額 : 工数減 (実質的な増員回避) や購入価格の上昇抑制, 追加投資費用抑制等を除く 損益への直接影響額

## ■ 2026年はアセチレンブラックのタイでの新規製造拠点投資が進捗し、設備投資額が減少

単位：億円

	設備投資・投融資額 <sup>※1</sup>				減価償却費				研究開発費			
	2025年度		2026年度		2025年度		2026年度		2025年度		2026年度	
	上期 実績	通期 実績	上期 予想	通期 予想	上期 実績	通期 実績	上期 予想	通期 予想	上期 実績	通期 実績	上期 予想	通期 予想
電子・先端プロダクツ	117	<b>379</b>	150	<b>250</b>	55	<b>112</b>	60	<b>120</b>	29	<b>58</b>	35	<b>70</b>
ライフイノベーション	12	<b>61</b>	30	<b>40</b>	21	<b>42</b>	21	<b>42</b>	23	<b>45</b>	20	<b>40</b>
エラストマー・インフラソリューション	38	<b>111</b>	50	<b>100</b>	42	<b>83</b> <sup>※2</sup>	45	<b>90</b>	13	<b>25</b>	15	<b>30</b>
ポリマーソリューション	23	<b>52</b>	40	<b>70</b>	25	<b>52</b>	32	<b>64</b>	10	<b>19</b>	10	<b>20</b>
その他/消去差	1	<b>4</b>	5	<b>10</b>	2	<b>3</b>	2	<b>4</b>				
合計	191	<b>608</b>	275	<b>470</b>	144	<b>292</b>	160	<b>320</b>	75	<b>148</b>	80	<b>160</b>

※1 「その他」にCVC等を含む

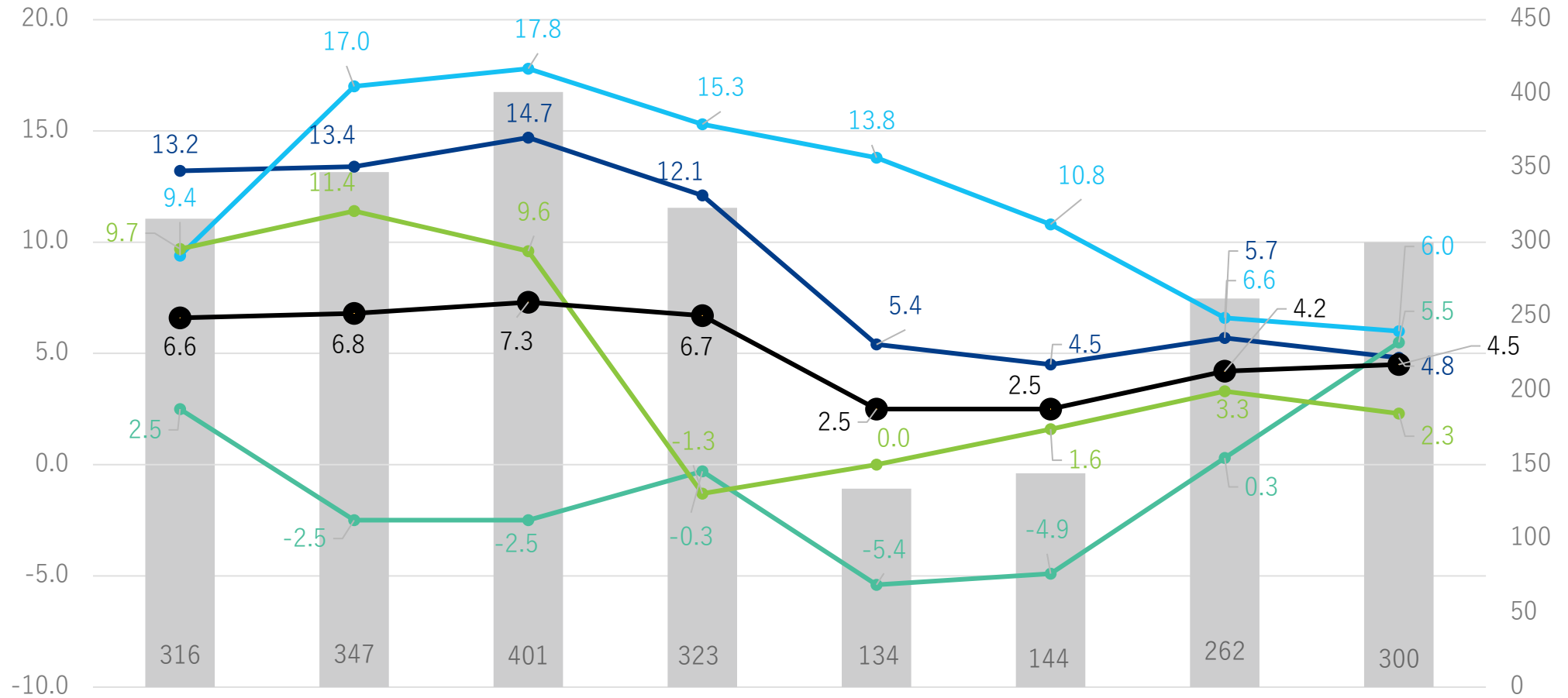
※2 DPEの償却減分を含む

## ■ キャッシュフローの改善を見込み、前年同額の100円/株を維持

		2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 予想
当期純利益	(億円)	227	228	260	128	119	△123	157	160
1株当たり配当	(円/株)	125.0	125.0	145.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
配当額	(億円)	108	108	125	86	86	86	86	86
配当性向		48%	47%	48%	68%	72%	-	55%	54%
自己株取得	(億円)	-	-	-	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	108	108	125	86	86	86	86	86
総還元性向		48%	47%	48%	68%	72%	-	55%	54%
減価償却額	(億円)	225	229	239	270	269	279	292	320
設備投資・投融資 <sup>※</sup>	(億円)	369	423	356	394	440	700	608	470
有利子負債残高	(億円)	1,343	1,382	1,370	1,697	1,744	2,177	2,217	2,450
ネットDEレシオ		0.42倍	0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.45倍	0.61倍	0.60倍	0.69倍
<b>ROIC</b>		<b>6.6%</b>	<b>6.8%</b>	<b>7.3%</b>	<b>6.7%</b>	<b>2.5%</b>	<b>2.5%</b>	<b>4.2%</b>	<b>4.5%</b>
<b>ROE</b>		<b>9.1%</b>	<b>8.8%</b>	<b>9.4%</b>	<b>4.4%</b>	<b>4.0%</b>	<b>△4.1%</b>	<b>5.2%</b>	<b>5.1%</b>
<b>DOE</b>		<b>4.3%</b>	<b>4.2%</b>	<b>4.5%</b>	<b>2.9%</b>	<b>2.9%</b>	<b>2.9%</b>	<b>2.8%</b>	<b>2.7%</b>

(ROIC : %)

(営業利益：億円)



- 営業利益
- 電子・先端プロダクツ
- ライフイノベーション
- エラストマー・インフラソリューション
- ポリマーソリューション
- 連結合計 (共通、その他資産含む)

単位：億円

売上高	2023年度				2024年度				2025年度				2026年度予想	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期
電子・先端プロダクツ	192	225	217	245	219	232	225	247	236	265	258	285	500	600
ライフソリューション	72	150	158	90	78	146	127	82	66	148	135	56	200	250
エラストマー・インフラソリューション	280	292	286	256	292	272	280	272	258	241	229	248	500	550
ポリマーソリューション	298	317	309	319	326	349	349	330	338	316	278	309	800	900
その他/消去差	37	51	45	54	38	40	44	56	43	56	40	37	100	100
合計	878	1,035	1,015	964	952	1,038	1,025	987	941	1,026	941	935	2,100	2,400

営業利益	2023年度				2024年度				2025年度				2026年度予想	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期
電子・先端プロダクツ	21	28	18	24	23	27	20	22	25	38	34	41	40	90
ライフソリューション	9	57	31	20	17	40	19	20	2	36	28	△4	30	30
エラストマー・インフラソリューション	△7	△9	△39	△37	△2	△29	△26	△23	△14	△20	11	24	40	30
ポリマーソリューション	0	△2	6	△4	3	4	4	1	4	11	5	16	0	20
その他/消去差	5	5	4	6	7	5	7	5	6	9	6	3	10	10
合計	28	77	20	8	47	47	24	26	23	74	85	80	120	180

## 業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき、当社の判断による一定の前提の下に作成されており、リスクや不確定要素等の要因が含まれていること、これら会社の将来情報と実際の業績とは乖離する可能性があります。

世界に誇れる、化学を。

# Denka

本資料に関するお問い合わせ先  
デ ン カ 株 式 会 社  
コーポレートコミュニケーション部

---

**TEL**

03-5290-5511

**URL**

<https://www.denka.co.jp>